

皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

私は、残念ながら左足首踝を骨折しベッドの上で掲載記事を書いています。

あの2014年2月14日の大雪で、足首を内側に捻ってしまいました。

入院して判ったことは、わずかな期間でも太ももの筋力低下、足首固定による柔軟性の劣化が起こります。

また、松葉杖を使用するにも腕と足の筋力が必要です。

骨折しないことは勿論ですが、常日頃から筋力アップに努めることをお勧めします。

さてそれでは、本題の列車の旅に入りたいと思います。

今回は、関東の隣接である信越エリアをご紹介します。

信越と言えば長野新幹線開業前までは、信越本線を中心に路線が展開されていました。

ルートの的には、高崎～上田～長野～直江津～柏崎～長岡～新潟ですが、高崎線、東北本線を経由し上野駅まで結んでいます。

高崎からは、清水トンネル経由～越後湯沢～長岡ルートの上越線に、長野では、松本方面の篠ノ井線に接続し、中央本線経由で新宿、名古屋方面と結んでいます。

直江津では、富山～金沢方面の北陸本線に、新潟では、秋田～青森方面の羽越本線と接続しています。

信越本線の最大の難所は、なんと言っても碓氷峠の区間です。

全長11.2kmの間に18の橋梁、26のトンネルが施設されています。

更にこの区間には、66.7パーミル【1000m進むと66.7m登る】の急傾斜があり、日本最大の難所でした。



このため、1893年開通時よりアプト式の線路を導入し運行していましたが、電気機関車の性能向上により1963年にアプト式は廃止されました。

SL時代では、連続するトンネルのため機関士が窒息する問題も発生し、専用の火力発電所を設け日本初の電化区間を

実現しました。

それでも、列車単独では急勾配のため走行できず、下り方向【横川→軽井沢間】では、先頭2両、最後尾1両に電気機関車を連結し牽引していました。

この牽引は、D-51蒸気機関車5重連に相当するそうです。

この連結操作を横川駅で行いますので、時間待ちに釜飯を購入し食事をするようになり、やがて峠の釜飯として有名になりました。

平成9年(1997年)10月、長野新幹線開業に伴い横川駅～軽井沢駅間は、①県境であり乗降客が望めない ②牽引用電気機関車が必要 ③高額な維持費が必要であることから廃止されました。



横川駅構内の操作場跡地には、【碓氷峠鉄道文化むら】がオープンし、当時の車両が保存されています。

これにあわせ、軽井沢駅～篠ノ井駅間を第三セクター【しなの鉄道】に転換しました。

また、2015年春に開業が予定されている北陸新幹線【長野～金沢間】により、信越本線【長野～直江津間】が長野県・新潟県の第三セクター会社に転換される予定です。

当然ですが、北陸本線【直江津～金沢間】も同様な措置が取られます。

これにより、ますますJR区間が減少し【青春18きっぷ】の乗車可能区間も減っていきます。

乗り鉄としては、経費の出費もあり痛いです。



しなの鉄道小諸駅を下車しますと、駅裏手に小諸城址【懐古園】があります。

夏場でしたので涼しげな小道が城内を巡っています。

小諸駅からは、JR最高地点を運行している小海線が接続されています。

この路線は、高原列車の旅です。

電波望遠鏡の野辺山天文台があるJR最高地点駅の野辺山駅、避暑地で有名な清里駅があります。

またこの路線には、世界で初めてのハイブリッド電車が走っています。



環境に優しい電車です。

小淵沢駅から諏訪方面に向かうと、諏訪湖の手前の茅野駅で下車します。



駅からタクシーで10分、信濃国一之宮：諏訪大社上社本宮が鎮座しています。皆さんも御柱祭はご存じだと思います。本宮入り口には、御柱目処挺子、由緒ある荘厳な社が続いています。



本宮から前宮に向かう途中に、杖突峠入口の案内がありました。

これを登れば杖突無線中継所に着くのかなと考えたりしました。

約40分程で前宮に到着します。

このお宮が一番始めにできたのでしょうか。



茅野駅から諏訪湖を周り下諏訪駅で下車しますと、下社【春宮、秋宮】が鎮座しています。

春宮は、下諏訪駅よりほぼ直線で徒歩15分程、途中に下馬橋があります。

昔は、どのような偉い人でも馬から下りて身を浄めて渡ったそうですが、今は、神様しか渡れません。

春宮に隣接して、万治の石仏がありますので見ることをお勧めします。



秋宮は、春宮より横に徒歩15分程で

到着します。

ここには、全国的にも珍しい温泉湯水の御神水が設置されています。

理由は、境内に温泉ホテルがあり引き込んでいるようです。



下諏訪駅より中央本線を下りますと、岡谷駅～塩尻駅間が2ルートあることに気がつきます。

元は、辰野駅ルートが本線でしたが山あいを走るため、複線化にあわせショートカットのみどり湖駅ルートを作りました。

辰野駅からは、J R 東海の飯田線が接続し豊橋方面と、塩尻駅からは、やはり J R 東海の中央本線：西線が接続され、名古屋～松本～長野間を結んでいます。



塩尻駅に到着しホームから岡谷方面を眺めると、右側にカーブする線路に気がつきます。

そうなのです。

新宿からの中央本線が名古屋に向かうためには、スイッチバックが必要なのです。すかさずタブレット端末で調べますと、以下のことが判明しました。

1. 昭和 57 年（1982 年）：現在の場所に駅舎を移転
2. 中央本線を東京方面：東線、名古屋方面：西線とし系統を分離、各方面とも上り方向とした
→従来は、東京方向から名古屋方面が直通で、名古屋方面から長野方面がスイッチバックでした
3. 従来の直通線路は残してあるが、駅舎移転後、使用されたのはたったの 2 回のみ、ほとんど使用されていません

このような運行形態となった最大の理由は、東海道新幹線の開業です。

東京から中央本線経由での需要は皆無、名古屋方面から松本・長野方面は需要があるためです。

やはり新幹線の開業は、観光や地域社会に多大な影響を与えるようです。

そう言えば、茅野駅で乗車したタクシーの運転手さんが言っていました。

*長野新幹線が開通したら観光客が減ってしまった。北陸まで開業するとまた影響が出るだろう

良い方向に影響が出れば幸いです。

塩尻駅から篠ノ井線に乗車し松本駅で下車します。

ここには有名な国宝：松本城があります。

駅からメインストリートを歩きますと 15 分程で到着します。

流石に立派ですね。



松本駅で接続しているJR大糸線、アルピコ交通線の駅名には【島】の名前が多いのに気がつきます。

また、海がないのに【海ノ口駅】もあります。

諸説ありますが、その一つを紹介します。

【駅名】：島内、島高松、下島、新島々

【諸説】：シマ→縄張り（ここは俺のシマだ）

【駅名】：海ノ口駅（木崎湖の畔）

【諸説】：昔は海の池とも呼ばれた、湖（ミズウミ）

→海（ウミ）、川が注いでる入口（例：序ノ口）

なお、東京外環状：前橋～甲府バイパスの海ノ口無線中継所は、小海線の佐久海ノ口駅になります。

松本駅から篠ノ井駅に向かう途中、姥捨駅があります。

普通電車の場合は、スイッチバックで降りていきますが、特急電車は姥捨駅によらず一気に通過して行きます。

そして、眼下には広大な佐久平が広がっています。



長野駅からは、再び信越本線に乗車し直江津に向かいます。

途中、豊野駅から飯山線が接続されて上越線の越後川口駅と結んでいます。

飯山線の名称でもある飯山市には、飯山駅があり北陸新幹線の停車駅ができます。

この、飯山駅にはエピソードがあります。

信越本線建設に当たり飯山地域を経由する案が有力でしたが、飯山地域は千曲

川の水流を利用した水運が盛んでした。

このため、地元の方々は、①蒸気機関車の煤煙で稲穂が枯れる ②汽車の音は人間や畜産の寿命を縮める ③汽笛に驚いて鶏が卵を産まなくなる ④馬方の仕事が無くなる等の理由から猛反対しました。

この結果、信越本線は飯山地域を経由しないルートとなりましたが、開通後は、物流、交通の流れが大幅に変わってしまいました。

これに後悔した地元の人々は、せめて私鉄でもと豊野駅～十日町駅間に飯山線の前身である飯山鉄道を作りました。

明治21年（1888年）：信越本線開業時の後悔が、北陸新幹線開業により吹き飛ばすことを期待します。



妙高高原駅から新潟県に入り二本木駅に到着します。

ここは、二段スイッチバック駅で列車交換のため全列車が停車します。

駅に隣接して、この地形を生かした工場がありました。

専用の引き込み線から原材料を投下すると、地形が下がる方向に製品化されるように工程化されていたそうです。

山の傾斜を利用した工場を作る、何と素晴らしい知恵ですね。



二本木駅を降りて行きますと、直江津駅に向かいます。

直江津は、古来より交通の要所でもあり越後国の国府、国分寺が置かれていました。

越後国一之宮である居多神社も近くにあります。

直江津駅から信越本線で柏崎駅へ、ここで越後線に乗り換え、更に、吉田駅で弥彦線に乗り換えて弥彦駅に向かいます。

弥彦駅から徒歩15分、越後国一之宮：弥彦神社が鎮座しています。

駅舎が社造りになっています。



最後に、弥彦線、越後線で新潟駅に、ここから白新線、羽越本線で村上駅に向かいます。

村上市は、村上城跡、笹川流れ、そして鮭の町です。



鮭は、三面川、大川にて伝統漁法による漁業が毎年10月下旬から12月上旬まで行われています。

この鮭を独特な製法で、お酒にぴったりの味に仕上げています。

今回は、吉永小百合さんのコマーシャルで有名な鮭の店【味匠：喜っ川】を訪れてみました。



店内は鮭の薫製の匂いでいっぱいです。訪れた時には、鮭が約1000本吊るしてあるとのことでした。

鮭が吊るしてある家屋は、玄関から海風が流れるように作られているそうです。

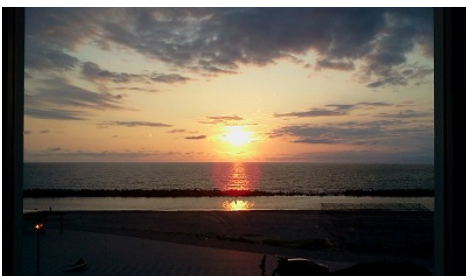
これも先人の知恵ですね。

また、昔の客間も公開されており、懐かしい空間が広がっています。



妙齢のご婦人、お嬢様の観光客が多数見えていました。

また、地元TV局の情報番組の撮影も行われており、一度は訪れたい場所の一つです。



最後に、日本海に面する瀬波温泉の夕映えを紹介します。

温泉に浸かりながら、食事をしながら夕陽を沈むのを楽しむのも良いと思います。

二人以上が望ましいです。

今回は、信越本線を中心に旅してみました。

JRが販売しています【青春18きっぷ】を購入し、ローカル線の旅も楽しいものです。

時間と空間がゆっくり流れ、高原の心地好い爽やかな風、そして夕陽の太陽が貴方を待っています。